

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201594		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム百合が原ふぁみりあ1号棟		
所在地	札幌市北区百合が原4丁目3-1		
自己評価作成日	令和4年2月22日	評価結果市町村受理日	令和4年4月1日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action=kouhyou_detail_022_kan=true&JigvogyoCd=0170201594-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年3月9日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍になる前までは、百合が原公園での資源活動や近所の保育園児との交流がありました。現在は感染予防のこともあり、交流はありません。施設のホーム内は天井や廊下が広めに設計されています。明るい雰囲気の中、入居者様一人ひとりがゆったりとマイペースに過ごされています。職員一人ひとり入居者様のことを考える事が出来、体調の変化に気をつけたりコロナ禍でも楽しめる事を考えたりして取り組むことが出来ています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

札幌市北区のJR学園都市線「百合が原駅」やバス停も近く、百合が原公園に隣接し自然豊かな環境に恵まれている。法人は札幌圏内に介護老人福祉施設や介護老人保健施設、障がい者支援施設など地域に根ざした運営をしており、協力体制も整っている。事業所は重厚感のある木造平屋建て2ユニットで、天井が高く明るい日差しが差し込み、暖かな温もりが感じられる。共有空間はエアコンや扇風機、加湿器で温湿度や空調管理をしながら、個別の補助暖房として電気ストーブを使うなど、快適に過ごせる配慮をしている。居間から車いすでウッドデッキを通り、中庭に出て庭を眺めたり外気に触れることで気分転換ができる。職員とお喋りしながら利用者は自由な場所で塗り絵やパズル、ゲームをしながら楽しく過ごしている。各居室はプライバシーが保たれたトイレや洗面台が備え付けであり、馴染みの物に囲まれ安心して暮らしている。現在、まん延防止等重点措置期間中であるため外出の自粛や面会制限中であるが、携帯電話を使った家族とのWeb面会に対応をしている。事業所では、今後も感染症と共存した生活が続くことを想定して、通院帰りに遠回りをして季節を感じる風景を車窓から見て帰ってくるなど、閉鎖的にならないよう職員一人丸となり利用者を支援している。ゆったりとした時間の中で自分らしく安心して暮らしていただける事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人・事業所独自の理念があり、玄関に掲示して全職員が目にすることができる。	法人理念は事業所内に掲示し、職員の名札カード裏にも携帯をしている。各ユニットの職員で作り上げる年度目標と理念が介護に結びついているか、日々確認をしている。職員採用時に理念に沿った介護ができるよう説明をしている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	百合が原公園での活動や隣接の保育園児との交流等行っていたが、現在はコロナの関係もあり行っていない。	以前は子供やボランティアの訪問があり、町内行事に参加をしていた。現在は資源回収や回覧板を通しての交流になっているが、町内会長からマスクの提供を受けた。今後、感染症が落ち着いた時期にどのような交流ができるか検討をしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議を通して、施設利用者の普段の生活や対応の仕方等を報告し認知症の理解を求めている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二か月に1回ペースで開催している。現在はコロナの影響で書面交換で実施している。	2か月ごとの書面会議では、事業所の報告の他、余暇活動、身体拘束、事業報告、身体拘束等の研修、感染症対策等を議題として介護予防センターと地域包括支援センターへ事前に意見や情報をもらい、議事録に加えている。	運営推進会議のメンバーから会議前に意見や要望を受け取り、会議録へ盛り込み、町内会、民生委員、家族等へ議事録を送付し、有意義な運営推進会議が運営できるよう期待したい。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議にて毎回、書面ではあるが地域包括支援センター職員の参加がある。事業所の状況を伝え、意見や助言が得られている。	おむつサービス、要介護状態区分の変更、職員のPCR検査等、各種の申請で連絡を取り合っている。市から感染症関連の情報等の連絡が届いている。保護課の確認調査にも協力をしている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に身体拘束委員会を開催し、日々職員同士で「これは拘束にあたらぬか？」と注意を払いながら身体拘束をしないケアに努めている。	身体拘束廃止に係る指針を準備し、令和3年度は身体拘束廃止委員会を6月9月12月と3月に予定をしている。それらに係る研修も9月と3月に行う予定である。玄関は夜間のみ防犯目的で施錠しているが、日中は自由に入出入りができる。	身体拘束廃止委員会とそれらに係る研修の議事録作成について見直すなど、必要な書類の整備に期待したい。
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は入浴や更衣介助時などには皮膚にアザ等がないかチェックを行っている。ユニット会議でも禁止事項に繋がらないかを話し合っている。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	隣ユニットに後見制度を利用されている方がいたため、少しずつではあるが情報をもらい学んでいる。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	身体的やご家族の事情で契約の解約となることが多いが、入院中からの退居であれば医師や相談員、家族と今後の方針や入所先を相談して納得されたからの解約に至っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	御家族へのアンケートを例年実施し、アンケートは無記名のうえ返信先が本部となっている為、家族は遠慮せずに何でも意見や要望が書きやすくなっている。結果は職員全体に周知し改善に向けている。	年数回「ふぁみりあだより」を発行し郵送している。面会が困難であっても、電話で体調や暮らしぶりを伝えている。Web電話で家族と連絡をしている利用者もいる。家族意見は記録し運営に反映している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全ての意見が反映されているわけではないが、全職員へアンケート調査を実施して意見を募っている。又、管理者会議において統括管理者に意見や要望を伝えている。	職員とは業務中や申し送り時に話し合っており、職員意見は運営に反映されている。職員アイデアで考案したゲームや飾りつけなど、外出制限のある時期でも屋内で楽しく過ごせる提案が出ている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの労働条件や希望をなるべく反映するよう努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年に数回法人内で研修が行われていたが、現在はコロナの影響でほとんど開催されていない。主任クラス、管理者クラス、一般職員クラスとに分かれた研修を開催されていた。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は市や区の研修会に参加した際は、他事業所との意見交換や情報収集を行うようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には本人との面談を行い、入居するにあたり不安なことや希望を聞き入れ対応するように努めている。又、家族や担当者に少しでも多くの情報提供をしてもらい実態把握に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所相談～入居に至るまでに家族とは密に連絡をとったり、必要あれば訪問や来所をしていただき不安なことや希望を聞き入れ少しでも対応できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	サービス開始時は外部からの情報しかない為、それを元に状況把握に努め、その時の本人が必要としている支援を見極めるようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	その方の家族や生い立ちを話題に出すことで、親近感を感じていただき職員と利用者との距離が縮むよう努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	御家族の面会時には近況報告を行い意見交換を行っている。又、衣類の手直し物品の購入等を依頼し協力を得ている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	バスレクなど外出の際には、入居前に住まっていた家の前や近所を通り安心感や懐かしい気持ちに浸っていただいている。	現在は外出制限があり買い物や自宅への訪問ができない状況であるため、職員が家族へ利用者の必要な物を連絡し、家族や従妹が本人の好きな本や衣類、菓子を届けている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者一人ひとりの交友関係や認知の程度を把握し、普段の過ごされる場所や食事席などに配慮している。又、利用者同士の交流が困難な方は職員との関わりにより孤立を防いでいる。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去時には御家族や入居先の事業所に、今後も何かあればいつでも相談されるよう伝えている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者一人ひとりの性格や生活スタイルを把握するよう努め、なるべく本人の趣味やペースが尊重されるよう努めている。	日々の会話で利用者の思いや希望など、意向を確認しながらフェイスシートの備考欄に記入するように改善した。会話が困難な場合は利用者の行動や表情で読み解いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	御家族からの情報収集を行い、これまでの暮らしの様子を把握するように努めている。又、入居前に他サービス利用があれば、そこからの情報も求めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニット会議や日々の申し送りなどにて意見交換を行い情報を共有するようにしている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居前より本人や家族の意向を聞き、暫定の計画書を作成し2週間を目途に本プランを作成している。	毎月の会議でモニタリングの結果を「課題分析(アセスメント)概要」に反映させ、本人や家族の要望も取り入れた介護計画を作成している。「生活(暮らし)アセスメントシート」と「生活援助計画」は計画目標の番号を記し記録している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別のアセスメント記録に記入している。毎日の引継ぎや月一回のスタッフ会議にて意見交換を行い一人ひとりの情報を共有するようにしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々の家族事情により困難な対応(受診や買い物等)を行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	季節を通して公園での活動や散歩、近隣の子供達との交流、町内会の参加にて地域資源との協働を図っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前より本人や御家族には当事業所の協力病院との連携体制を説明している。希望や状況によって他医療機関への対応も柔軟に行なっている。	提携医療機関から2週間ごと内科と精神科の往診があり、毎週訪問看護師も健康管理に訪れている。職員が同行し、定期的な血液検査やCT検査に向いている。毎週、歯科の訪問診療を受け口腔ケアを行っている。	

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院からの訪問看護が週に一回のペースであり、利用者の状況報告を行っている。訪問以外でも変化があればいつでも24時間相談できる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院であれば、いつでも本人の状況をきくことができる。他医療機関に入院中は定期的に連絡をして退院に向けての話し合いをしている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化が進んだ時には家族に相談して、場合によっては医師や相談員との話し合いの場を設け今後の方針や他施設入所の申請等の支援を行っている。(現在はコロナの関係で電話での対応が多い。)	重度化した場合の指針を契約時に説明している。終末期が近づいた場合は、医師が家族に状況の説明をしている。事業所では病院や介護施設への移行支援を含め、本人や家族の望む支援がどこまでできるかを話し合い、支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時でのマニュアルは常に確認できるよう記録に添付、壁に用意している。夜間帯の急変時には救急対応を優先できるよう両ユニットが連携をとれるようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時には町内住民の方に協力してもらうよう呼び掛けている。緊急通報システムにも登録している。又、防災対策委員会を開催して災害対策に取り組んでいる。	今年度は3月に自然災害から発生した火災訓練を計画している。災害備蓄品の水、食料等は1週間分備蓄している。災害別の防災マニュアルの整備と定期的な災害訓練を検討している。	災害別マニュアル等の書類整備を含め、早期の災害訓練の実施と、あらゆる自然災害を含めた災害対策の強化に期待したい。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各居室トイレにはカーテンを設置して、一部介助が必要な方の排泄中はカーテンの外で見守りを行ったりコールを利用してプライバシーに配慮している。	言葉かけに関する内容の研修や勉強会を行っている。個人情報に記載されている書類は事務所内の鍵付きの書庫で保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者一人ひとりの希望を実現できてはいないが普通の会話の中でその方の食べたい物や行きたい場所などを聞き取るようにし、行事などで実施できるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その日の体調を配慮し日課の参加も強制しないようにしている。又、都合により入浴日を変更したりと入居者の都合が優先されるよう努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自己決定できる方には本人の意思で選んで頂いている。自己決定が難しい方は、なるべく同じ服装が続かないようクローゼットにしまう時には下にしまう工夫をしている。服の色のバランスも考えるようにしている。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)	外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	献立は決まっており毎回、一人ひとりの嗜好品を提供するのは難しい。食事量や食欲の低下が見られる方は御家族が本人の嗜好品を用意してくれたり協力があがる。	食材業者作成の献立を利用している。利用者の希望で献立を変更することもある。行事の際のわたあめ、かき氷などのおやつも楽しみになっている。ミキサー食も彩りや味などを工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	全利用者の食事・水分量のチェックを行っており個々の必要摂取量を目指している。又、一人ひとりの状態に応じて食事形態や内容を変えて対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	支援が必要な方には毎食後、義歯洗浄と口腔ケアを行っている。又、定期的な歯科往診があり口腔ケアやトラブルにも対応してもらっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄記録や引き継ぎにより、一人ひとりの排泄状況を把握している。それによりトイレ誘導の時間や回数などを工夫し、なるべくトイレでの排泄を目指している。	バイタルチェック表に個別に記録している。仕草や表情、時間帯を見て一人ひとりに合わせた声かけ誘導を行い、失敗を減らしている。各居室にトイレが備え付けられており、自立している利用者もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘予防に水分の促しと体操の参加を呼びかけている。便秘傾向の方には医師に相談して整腸剤や下剤の処方してもらい対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	その日に入浴されるメンバーは決まっているが、一人一人に対しての入浴時間を多く確保できるよう入浴順やメンバーに配慮している。都合により入浴できない方には翌日に入浴してもらえるよう調整もしている。	一人当たり週2回程度の入浴を午前の時間帯を中心にしている。以前から使用していたシャンプーや好みの香りの物を用意する他、入浴剤の使用、職員との会話などが利用者の楽しみになっている。希望があれば同性介助にも対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者一人ひとりの身体状況や生活習慣に応じて休息をとっていただいている。夜間帯は事故防止の為、睡眠の妨げにならない程度に最小限の電灯をつけさせていただいている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の服薬ファイルを作成し、全職員が服薬状況を確認できるようにしている。又、連絡ノートや受診記録により薬の目的や変更の経緯などを伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりの能力や好みに応じた活動(ちぎり絵、パズル、ビデオ鑑賞等)を提供し、気分転換を図れるよう支援している。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(1号棟)		外部評価(事業所全体)	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出行事では行きたい場所の希望を聞いたり、なるべく希望に添えた場所へ外出するようにしていた。又、定期的に御家族とショッピングや外食を楽しんでいる方もいた。現在は感染拡大防止のため、外出行事は行っていない。	感染症流行の影響で現在外出は控えている。受診の際に車窓から自宅などの馴染みの場所や川沿いの景色、桜などを楽しむ事ができるように配慮している。今後は、感染症との共存という視点で可能な外出を行いたいと考えており、利用者に寄り添った支援が行われている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	御家族と相談し自己管理可能な方は支障がない程度の金額を所持されている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	個人で携帯電話を所持されている方には使用方法の支援を行っている。又、遠方の家族より定期的に絵葉書が届きそれを居室に飾る支援も行っている。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節や行事によって装飾を変えたりと季節の変化に応じて、装飾を変えている。車椅子や歩行器の方が増えてきたため、廊下は広くするようにしている。	ホールやリビングの天井が高く天窓から陽ざしが差し込み明るく、広々とした空間になっている。ウッドデッキでは外気浴も楽しむ事ができる。クリスマスツリーや七夕の短冊など季節の装飾が施されている。加湿器やエアコン、冬は集中暖房の他に電気ストーブを用意するなど利用者が快適に過ごす事ができる空間になっている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	利用者一人ひとりの性格や交友関係を把握し食事の席や普段の過ごされる場所に配慮している。又、本人に確認して過ごされたい場所を優先している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居前より家族と相談し、本人の状況から危険が予想される物や本人にとって必要な物を見極め、なるべく今までの生活が変わらないまま入居ができるよう配慮している。	各居室にトイレと洗面台が備え付けられている。タンスや椅子などの使い慣れた家具や人形、ぬいぐるみなど馴染みの物を持ち込んでいる利用者もいる。写真や花が飾られてる居室もあり、一人ひとりに合った居心地のよい居室が作られている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者一人ひとりの身体状況に合わせ手摺りの位置やベッドの高さに等に配慮し、一人ひとりが安全にスムーズに生活できるよう対応している。また必要方にはセンサーも設置している。			

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0170201594		
法人名	社会福祉法人 札幌恵友会		
事業所名	グループホーム百合が原ふぁみりあ2号棟		
所在地	札幌市北区百合が原4丁目3-1		
自己評価作成日	令和4年2月22日	評価結果市町村受理日	令和4年4月1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

コロナ禍になる前までは、百合が原公園での資源活動や近所の保育園児との交流がありました。現在は感染予防のこともあり、交流はありません。施設のホーム内は天井や廊下が広めに設計されています。明るい雰囲気の中、入居者様一人ひとりがゆったりとマイペースに過ごされています。職員一人ひとり入居者様のことを考える事が出来、体調の変化に気をつけたりコロナ禍でも楽しめる事を考えたりして取り組むことが出来ています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigvogyoCd=0170201594-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 サンシャイン
所在地	札幌市中央区北5条西6丁目第2道通ビル9F
訪問調査日	令和4年3月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ユニット会議、研修などで法人の理念の再確認を行っている。リビング、廊下などに目につく所に掲示している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎年、百合が原公園のレイズベツ、町内の夏祭り、近隣の放課後等デイサービスの祭りに中庭を開放し参加していたが、コロナ感染拡大にて行事事態が中止になり参加出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	今年度は、町内の行事も中止になり町内の人と接する機会が減ってしまったが、回覧板を届けたり、町内の人と出会った時は、ホームの様子を伝えている。近隣住民より、花の種などをいただいたりして何かと気にかけていただいている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	今年度より運営推進会議は書面開催委になっている。議題、研修についての意見、感想、新たな取り組みを包括支援、介護予防センターに返信いただき参考にさせて頂いている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	札幌市連絡会や、北区管理者連絡会などの定期的に参加をして、札幌市の情報提供等や、行政通達の案内をユニット間で提示できるようにしている。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	ユニット会議でも実施しており、身体拘束と人権の尊重と権利擁護について研修を実施している。また、各スタッフに「認知症」と「人」の権利をみんな考える小冊子を配布して身体拘束をしないケアに努めている。出入口には施錠することなく生活しているが、夜間は防犯上のため施錠している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	ユニット会議での話し合いでも、日々の業務中でも、禁止事項に繋がらないか職員同士確認する事を怠らず、利用者側からの目線で配慮しているかを検討している。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を利用している利用者が過去数名おり業務上学ぶことが多い。見学等家族の相談を受けた時は、相談窓口の紹介や今後の不安はないのかの確認をしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約説明時は契約文を読むだけではなく、わかりやく説明できるように務めている。契約時に疑問があればすぐに対応できるように、契約書の内容を把握するよう努めている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入所時の書類に、苦情受付の手順を記載し、説明をしている。意見箱の設置。家族、利用者からの意見、要望があれば早急に対処できるよう取り組んでいる。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフのユニット会議、申し送り時の意見、提案を取りまとめ管理者会議で管理者が報告している。早急な事案は統括管理者に連絡し意見を仰いでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務表作成に関して休み希望を制限せず、勤務表を作成している。家族環境に配慮して、急遽の休みでも対応できるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	ユニット研修を月ごとに実施していたが、感染予防のため研修を中止にしている。研修資料について各自に配布し確認できるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は札幌市、北区管理者連絡会議の場での交流はあり、定期的に参加し情報交換、事例検討などを行い質の向上に努めていたが、現在は書面、ラインのみの参加になっている。職員が出席することができなかった。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用前で利用者が不安であることを確認して、利用者の生活リズムが崩れないように配慮している。家族からは、利用後の様子などホームでの生活を報告し家族からも助言を頂いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスの利用開始について、家族等より疑問、心配事の相談があれば早急に対応している。安心してサービスを利用できるように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居相談時は、本人の生活状況で困っている事家族も含めて、他のサービス利用などケアマネジャー、病院職員、施設職員との連携をとり包括的に相談を受けるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	朝の掃除、手の届く所の除菌作業、洗濯たたみ、洗濯干しなど入居者の負担にならない範囲で、一緒に行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ホームでの生活の様子を家族に話したり、ラインで歌を唄っている動画を送ったり、手紙、メール、電話を通じて関係が継続できるように支援している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族、親戚、友人など、来訪される人は多い。現在は感染対策のため、玄関、相談室など場所と時間を限定している。利用者の好物の食べ物、好きな音楽のCDなどを持参してきてくれる方も多くいる。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間にさり気なく職員が入って話題を提供したりして、利用者同士の関係を橋渡ししている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後も、家族の精神的な緩和や利用者の身体状況を確認したり、相談が継続できるように支援している。また、退去後に入居した施設、病院などにも情報を共有している。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で思いや意向をケアプランに反映できるように努めている。ケアプラン上では本人の言葉を課題にあげて目標達成できるように支援している。			
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅生活での暮らしの中で本人・家族から話を聞いたり、疾病からサービス利用での状況等を相談員より確認して把握に努める。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個人記録の記載には、日々での生活の様子。身体状況や受診時については、受診記録に記載して、訪看、医師と連絡をかかせないように連携をとっている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的に会議でモニタリングを行いケアプランに繁栄できるようにしている。利用者、個々の言葉や思いを再度、職員、家族が共通認識ができるようになっている。必要時は家族に相談している。			
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者、家族のその時々生まれるニーズについて、個人記録及び申し送りノートに記載して、情報の共有ができるように行い、その都度生まれるニーズについては、職員や家族間とも連携がとりながら取り組めるようにしている。個人記録・受診記録があり、職員がいつでも閲覧できるようにしている。申し送りノートに記載し全職員共有できるように努めている。記録には、利用者の思いが共有できるように言動を記載するようになっている。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個人記録・受診記録があり、職員がいつでも閲覧できるようにしている。申し送りノートに記載し全職員共有できるように努めている。記録には、利用者の思いが共有できるように言動を記載するようになっている。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ニーズについて、個人記録及び申し送りノートに記載して、情報の共有ができるように行い、その都度生まれるニーズについては、職員や家族間とも連携がとりながら取り組めるようになっている。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前、主治医の確認をして、協力病院に変更するかを確認している。在宅生活より利用していた。かかりつけ医を利用している方もいる。内科往診2回、精神科往診2回、訪看が週1回、歯科週2回、体調に変動があれば、家族に確認に受診等をしている。			

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	協力病院から週一回訪問看護があり、その都度体調変化などを看護師に相談し必要があれば、受診できるように体制をとっている。体調の急変などは24時間連絡し指示を受ける事ができる体制になっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	協力病院の相談員、医師、看護師、家族と連携をとり、入院時での体調変化など家族、職員間で共有できるようにしている。定期的に看護師から、入院時の様子や病状の報告を受けている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	協力病院、医師、家族共に現状把握と今後についての話し合いをして、利用者、家族の希望を踏まえながら方向性を常時確認できるようにしている。家族が今後ついて、決定を見出す事ができない場合は様々な選択がある事を話し、共に考えていく。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	協力病院に、緊急時にすぐに受け入れてくれる体制を整えている。緊急時、事故の対応等は、日誌、個人ファイルなどに記載し日頃から確認している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所、災害時の食料備蓄の消費期限、非常用持ち出し袋の場所など職員に周知している。防火訓練は定期的実施している。		

IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者の尊厳を大切に、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応を行っている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者にできる限り選択してもらう言葉かけを行い、入居者の意思を尊重するよう心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりにあった日常生活を送っていただく。希望や要望があった際は入居者の思いが実現できるようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床、就寝時、入浴後などに整容をおこなっている。体系に合い好みの服装を選んで着用していただいている。1~3か月のペースで出張散髪に来てもらい、散髪を行っている。		

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者の嫌いなメニューの時は違う物を提供し、誕生日の時はご本人の希望を聞き要望に沿ったメニューにしお祝いをしている。目が悪い方や食べ方がわからなくなった方にはその都度声掛けをしている。			
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量、水分摂取量はアセスメントシートにわかりやすく記載している。体重増加、減少傾向の利用者は個々に対策を取っている。			
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアの見守り、必要時は介助を全ての入居者に実施している。定期的に訪問歯科衛生士にケアしてもらい、歯科医師に治療してもらっている。			
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄はアセスメントシートに記載し個々の排泄時間、パターンを把握。便座に座り排泄できるように声かけ誘導をしている。介助は個々の残存機能に合わせ手すりなどを活用しなるべく一部介助、見守りで排泄できるようにしている。			
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	起床後、10時、3時に牛乳やほうじ茶、ココアなどを提供。水分量のチェックをして、不足している利用者には飲用を促し自然排便に繋がるように努めている。水分摂取が困難な利用者には、ゼリー状にして提供している。			
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は、基本1人週2回実施している。入居者の体調や意向を考慮し、時間や曜日を変更。清潔を保ちつつリラックスできるよう心がけている。			
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室でゆっくり過ごしたり、テレビを視聴したり、臥床したりしている。夜間、眠れない入居者には個別に対応している。			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬情報は職員がすぐに確認できる場所においてある。薬の変更、調整等は連絡ノートに記帳し全職員に周知している。、訪問看護師にも報告。精神科drと内科drの薬情報が共有できるようになっている。			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居前から自宅で行っていた家事や好んで食べていた物、聴いていた音楽などホームでも出来る限り変わらずに生活できるように家族にも協力してもらっている。			

グループホーム 百合が原ふぁみりあ1号棟・2号棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価(2号棟)		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	現在は、感染対策で外出の機会は少なくなったが、お花見、紅葉など季節を感じられる行事は行っている。海が好きな入居者を家族が連れて行ったりしている。			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	希望にて、家族に相談同意を得て少額の金額だが所持している入居者もいる。トラブルになったケースもあるので職員は確認を怠らないように努めている。			
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	現在は、希望する入居者はいないが、家族や知人からの誕生日カードや年賀状を職員と読んだりして楽しんでいる。			
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	リビング、廊下にそれぞれ2つつつソファを設置している。テーブル席の椅子は食事以外は指定せず、その時の状況や気分に合わせて利用者や職員、家族と過ごしたり、雑誌、新聞を読んだり、サンルームやリビングの窓から庭を見眺めたりしている。			
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共同空間の中に、CDが聴ける場所を作ったり、ソファでくつろいだり、パズル、トランプ、塗り絵など好きな事をして過ごせる場所を提供している。			
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には、本人が好むようなもの昔、使っていた趣味の物が置かれ、家族写真も貼られている。ほっとできる空間になっている。			
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部はバリアフリーで安全かつできるだけ自立した生活が送れるよう作られている。職員も環境のくくりに入るため、目配り、気配りで安全な環境で暮らせるよう支援している。			

目標達成計画

事業所名 グループホーム百合が原ふぁみりあ1・2号棟

作成日：令和 4年 3月 25日

市町村受理日：令和 4年 3月 31日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	35	災害別マニュアル等の書類整備を含め、早期の災害訓練の実施と、あらゆる自然災害を含めた災害対策の強化が必要。	災害マニュアル書類の見直し、災害訓練を定期的実施する。	災害マニュアルを新しく作り直し、職員へ配布。3月31日に避難訓練実施。令和4年度には消防士も含めた避難訓練を実施する予定。	1年
2	4	運営推進会議のメンバーから意見を受け取っているが、意見に対しての返答が記載されていない。町内会・家族への意見が無い為、議事録の送付が必要。	意見に対しての返答を記載。町内会・家族へ議事録を送付し、意見を頂くようにする。	毎回会議内で意見は頂いているため、意見の返答を次回の議事録へ記載するようにする。会議前に家族様・町内会へ連絡や議事録の送付を行い、意見を取り入れられるように取り組む。	1か月
3	6	身体拘束委員会を行えているが、委員会や研修回数分からない。書類整備が必要。	議事録作成を見直し、整備する。	各議事録の頭に委員会・研修回数などを記載した書類を作成。書類整備を行う。	1か月
4					
5					

注1)項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入して下さい。

注2)項目数が足りない場合は、行を追加して下さい。